

令和4(2022)年度 SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業 【取組及び成果】



令和5年8月

文部科学省国際統括官付
ユネスコ振興推進係



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

国立大学法人宮城教育大学



教員・学校・地域間の相互エンパワメントによる「SDGsカリキュラム」の展開と評価方法の開発

事業の概要

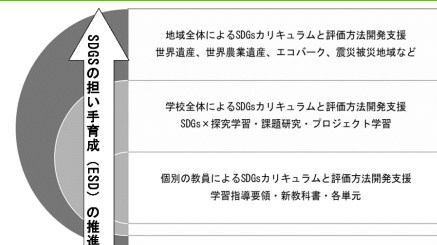
教員個人(Individual)、学校全体(Whole school)、地域全体(Whole area)に向けた相互エンパワメントを行い、東北地方におけるSDGsの達成を目的とする本事業を推進してきた。令和4年度は、SDGsの達成について、教員が生徒を評価し、学校が教員を評価するといった従来型の評価ではなく、個人、学校全体、地域全体が、自己評価(セルフ・リフレクション)と内省を行いながら、相互にエンパワメントを行うことができるようなモデルを複数生み出し、東北地方におけるSDGsの達成を推進する。

活動地域

①Individual(教員個人):宮城県、山形県 ②Whole school(学校全体):東北地方のユネスコスクール及び東北地方のSDGs推進校:青森県八戸市、青森県青森市、秋田県大仙市、山形県鶴岡市、宮城県仙台市、宮城県多賀城市、宮城県富谷市、福島県二本松市、福島県会津若松市ほか ③Whole area(地域全体):宮城県気仙沼市地域(東日本大震災被災地域)、宮城県大崎耕土地域(世界農業遺産地域)、秋田県大仙地域(環境教育学習地域)、福島県只見町地域(エコパーク地域)、福島県会津地域(環境教育学習地域)

取組及び成果

生徒、教員、学校、地域の自己評価(セルフ・リフレクション)に基づいた取組を促進することを通して、教員、学校、地域間で教育実践例や教材、評価手法等の交流が促進され、関係者が増加した。評価ルーブリックの活用、評価を明示する方法の展開、自己評価やピア評価を通して探究の取組を進める手法に進展がみられた。カリキュラムとしては、平和学習、人権への取組、東北地方の海岸線を活用した海洋プラごみの学校実践についての探究が進んだ。



【事業の情報発信(ホームページ)】

<http://xs269206.xsrv.jp/touhoku/>

児童生徒のピア評価



国立大学法人金沢大学



レジリエントでサステナブルな地域社会の実現に向けた世代間学習カリキュラムの開発

事業の概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、日本の地域社会には、サステナビリティだけでなく、レジリエンシーも求められるようになりつつある。本事業では、そうした地域社会の実現へ向け、大学、地方自治体、ユネスコ認定地域コミュニティが連携し、若者と高齢者のための世代間学習を促す特別カリキュラムを開発する。

レジリエントな社会を形成するためには、若者世代と高齢者世代の交流が重要な役割を果たす。

活動地域

石川県白山市、石川県金沢市、宮城県綾町、群馬県みなかみ町、三重県大台町

取組及び成果

1. 白山ユネスコエコパーク(BR)(石川県白山市)、大台ヶ原・大峰・大杉谷BR(三重県大台町)、綾BR(宮崎県)、みなかみBR(群馬県)を訪問し、地元高齢者世代住民との生活を体験した。
2. ユネスコ認定地域の実情を学び、理解を深めるために、地元住民と共に社会奉仕活動・ボランティア活動を行った。
3. 地場産業・観光業・農林水産業、伝統工芸品の分野で、地元中小企業や個人事業主との交流・意見交換を実施した。
4. 国際シンポジウムを開催し、本カリキュラムから得られた成果(知識やノウハウ等)を、国内外の研究者やユネスコ認定地域の代表者と共有した。

以上の成果により、コース終了後、参加した学生たちが自らのネットワークを形成し、BR地域でのさまざまなボランティア活動を計画することができた。

金沢大学・JU-MAB国際大学 BRオンラインシンポジウム
「SDGsとCOP15で新しく採択された生物多様性国際目標の実施にBRが必要な理由」
2月15日(水) 13:00~15:00

【事業の情報発信(ホームページ)】 <https://jumab.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

国立大学法人信州大学



ユネスコエコパークを核としたESD/SDGs実践カリキュラム開発支援と国際交流の促進

事業の概要

信州ESDコンソーシアムは、これまでユネスコエコパーク(BR)を活用したESD/SDGsの普及・推進とネットワーク構築に取り組んできた。本事業ではこれまでの活動を通じて収集・蓄積されたESD/SDGs実践事例の資産を活かし、教師がESD/SDGsカリキュラムを開発する際の参考となる資料等を整備する。また、BRで学ぶユネスコスクールの国際交流力の向上を目指して、ESD/SDGs実践事例の国際的な発信や、信州大学のグローバル教育と連携した国際共修プログラムの開発に取り組む。

活動地域

長野県及び全国10サイトのBR地域

取組と成果

カリキュラム開発支援に関しては、「成果発表&交流会」の事例発表を、実践記録等と併せて閲覧できるWebサイトを整備した。また、教職員を対象としたオンラインワークショップや、志賀高原BR管内の学校研修会等での意見交換、各地のBRでの実践を指導した教員へのヒアリングを実施し、これらの成果をまとめて普及冊子を作成し、全国のBRの学校等に配布した。国際交流の促進については、令和3年度「成果発表&交流会」の事例発表に英語字幕を付与し、それらを発信するWebサイトを構築した。また、志賀高原BR協議会等と協力して、国際共修やそれに活用する地域資源の検討を行い、さらにその成果を活用して、志賀高原BRでの海外ユネスコ関係者の視察受入やユネスコスクールでの国際交流を実現した。令和4年度「成果発表&交流会」は2月に2日間連続で開催し、900人以上が参加した。

【事業の情報発信(ホームページ)】 <https://esd-nagano.org/conference2023/>

国立大学法人北海道教育大学



過疎地のSDGsを推進するへき地教師教育力開発プログラムと学校力担い手育成事業

事業の概要

へき地・小規模校の教師を対象とする「へき地教師教育力開発プログラム」により、へき地・小規模校の教育課題をプラスへと転換し、へき地におけるSDGsの担い手育成とへき地の学校力の向上、地域の活性化を中心とした事業を展開する。

令和4年度は、①教育委員会と連携した現職教員研修プログラムの実施、②へき地・小規模校教育推進フォーラムの開催、③教員研修動画の作成・公開、④へき地・小規模校の教育用語集や指導書の企画、⑤へき地・小規模校教育 CBT(Computer Based Training)の企画、⑥全国的な現職教員研修ネットワークの構築等を行う。

活動地域

関係機関等との緊密な連携により、北海道を基盤に全国展開
以下、本事業の一環として、へき地教育実践を展開
・秋田県と秋田市、福島県、山形県と朝日町、山口県、鹿児島県をはじめとした各県教育委員会・根室市、日高町等の北海道内市町村自治体

取組及び成果

①では、北海道教育委員会と連携し「へき地・小規模校教育充実研修」を開催した。また、秋田県、山口県、山形県、鹿児島県等の研修会において、複式学級・少人数教育等に関する研修講座を実施した。②では、文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長による講演会、体育の授業実践をテーマにしたフォーラムを開催した。③では、ICTを活用した保健体育の研修動画を作成した。④⑤では、令和5年度の作成に向け構成を企画した。⑥では、全国へき地教育研究連盟等との連携事業を活かしたネットワーク構築に取り組んだ。

成果として、研修会、フォーラム、研修動画が好評だったことにより、新たに、東京都、海外(台湾)等から講師派遣の依頼があった。また、フォーラム開催により、へき地・小規模校の保健体育担当教員のネットワークが広がるなど、事業の普及が図られた。



保健体育の動画教材

【事業の情報発信(ホームページ)】 https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

国立大学法人東京学芸大学



SDGs達成の担い手育成のためのグローブを活用した教員研修プログラムの開発と実践

事業の概要

日本の自然環境、生物文化の多様性や生活文化等の地域特性・社会の課題解決に向けたSDGs達成に資するグローブ活動推進のための教員研修プログラムと機会の提供とその目的に資する「ティーチャーズガイド」の開発を行う。関係協力機関との連携を図るとともに、小金井市教育委員会やグローブ経験校の協力のもと、学校現場を踏まえた学習内容や観測手法などの必要項目を検討し、教員研修や教材に反映させる。

活動地域

東京都小金井市の小学校及び参加を希望した国内の各学校

取組及び成果

SDGs達成のためのグローブを活用した教員研修プログラムを経て、東京都小金井市小学校教員など16名の新たなグローブティーチャーが認定された。「ティーチャーズガイド」は「理論編」「地域編」「実践編」、合わせて35項目のモジュール型教材・ハイブリッド型教材を開発作成し、デジタル化して配信を行った。グローブの科学的かつ世界共通の観測手法による継続的な観測活動や体験活動が学校教育におけるSDGs貢献に資することを提示し、実践的な学びの体系・方法を提供した。



【事業の情報発信(ホームページ)】 <https://www2.u-gakugei.ac.jp/~globe/>

国立大学法人金沢大学



SDGs達成に向けたeラーニング教材開発及びコミュニティづくりによる教員等の専門能力開発

事業の概要

本事業は3年計画で、ESDを実践する教育委員会や学校の教員を対象に、実践編・教育経営編のeラーニング教材を開発・活用し、研修機会の創出と主体的な研修システムを構築し、教員や学生・院生、研究者等が学び合うコミュニティを形成することを目指している。主要事業を通じて、教員等の専門能力開発やSDGsの授業実践を進め、成果を全国に発信し、SDGsの達成に向けた人材育成の優良事例として本事業の周知を図る。

活動地域

一義的には富山県、石川県及び福井県の市町村
なお、開発した教材や研修プログラムの全国的な活用を目指す。

取組及び成果

eラーニング教材(実践編)が15本制作され、加えて(教育経営編)の制作に着手できた。また、幼児教育にも教材作成対象を広げることができた。そしてこれらの教材制作プロセスにおける研修機会を創出した。主体的な研修システムの構築に向けた準備としてオンライン講座の試行や、既存のeラーニングシステムでのコース設定や運用についての検討が進んだ。また、これまでのeラーニング教材制作協力者及び関係者を中核に、オンライン講座参加者を加えて、学び合うコミュニティの準備が進んだ。また、全国のコンソーシアムとの共有・共用について期待する。



【事業の情報発信(ホームページ等)】 <https://esd.w3.kanazawa-u.ac.jp>

学校法人金沢工業大学



ゲーミフィケーションを活用したSDGs教材・カリキュラムについて教員同士の学びあいを促す学習コミュニティの拡大・活性化

事業の概要

本事業では、「全ての小学生・中学生・高校生の主体的な学びを促す」「全国の小学・中学・高校・学習塾へのカリキュラム提供」「学生が自分で自分が進みたいと思う道を選び、より人生を楽しむようにする」を目標に、①学習コミュニティの拡大・活性化、②授業カリキュラムのベース提供と研修、③同属性の教員が集まる専門コミュニティの形成、④ゲーミフィケーション教材のビギナー版と授業カリキュラムの開発、⑤若者の意見を発信する場の設定、の5つを柱とし、昨年度から開発を進め、今年度完成したBeyond SDGs人生ゲームをメインコンテンツとして事業を展開する。

活動地域

石川県、本学がSDGs展開支援を行っている広島県、沖縄県、長崎県、愛媛県に加え、それ以外の都道府県で本学のゲーミフィケーション教材を既に活用している教育機関の数が多い北海道、大阪、兵庫、京都、東京、埼玉、千葉、愛知、福岡、静岡を中心に全国47都道府県に展開

取組及び成果

全国の小学・中学・高校・学習塾等が、Beyond SDGs人生ゲームをはじめとしたゲーミフィケーションを活用したSDGs教育カリキュラムを用いることで、持続可能な社会の担い手を育成できるようにすることを推進した。本事業の成果として、学習コミュニティを拡大・活性化し、研修・配信ならびにゲーミフィケーション教材提供等の取り組みを通じて学びあいの場を共有できた。また、アンケート等によりフィードバックをいただき、学習コミュニティの改善や授業の導入に向けた取り組みの改善を図ることができた。

成果(令和4年度終了時点)

Beyond SDGs人生ゲーム配布・導入校数	237校
イベント実施回数	43回



【事業の情報発信(ホームページ)】 <https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/>

国立大学法人愛知教育大学



「ESD for 2030」TOKAI プロジェクト—SDGs・ESD 普及啓発のための教員育成—

事業の概要

新教育課程の完全実施を迎え、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校では、児童・生徒の資質・能力の育成を図り、地域に貢献できる人材育成を展開できるESDを基盤とした授業が必要となるため、全ての教員がESDの授業を展開できるように、本学がこれまで培ってきたESD授業づくりのノウハウを活かしたミドルリーダー育成のための研究会を実施する。

東海3県の「ESD for 2030」を促進するため、これまでの成果を基にした教員研修を実施する。研修においては、ESDを実践する専門家、研究会教員を中心に、実践的な取り組みを行う。

活動地域

愛知県、三重県、愛知県安城市、愛知県小牧市、愛知県豊橋市、三重県伊勢市、三重県四日市市、三重県松阪市、三重県津市

取組及び成果

ESD授業づくりに関する5回の研究会を通して、ESD授業づくりに必要な教材・指導案作成、授業展開を具現化できる15名の教員を育成できた。

東海3県で開催したESD授業づくりに関する教員研修を開催し、その中で、研究会教員による学びの成果、ESD授業を展開することによる児童・生徒の資質・能力の育成の手法について、参加教員に対して普及・拡散することができた。東海3県でのESD教育に関連する各所とのネットワークづくりを行うことができた。



【事業の情報発信(ホームページ)】 <https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/action/sdgs.html>

国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学



ESD ティーチャープログラムの展開による教師教育の推進

事業の概要

全国の学校現場でESD推進の核となる人材(ESDティーチャー)の育成、ESDの質的向上とESDティーチャー等の実践者のネットワーク化、及び全国の学校教員のESDへの理解促進と実践への意欲化を目的に、次の三つの取組を実施する。

- (1) ESD実践者に必要な資質・能力の育成を目的に本学が開発したESDティーチャープログラムのオンライン・オフラインのハイブリッド方式による実施。
- (2) ESDティーチャー等、ESD関心層を対象とした、オンラインでの継続的なフォローアップ研修の実施。
- (3) 研修成果としての成果発表会のハイブリッドでの開催。

活動地域

福岡県大牟田市、熊本県菊池市、沖縄県那覇市、愛媛県松山市、鹿児島県屋久島町、奈良県奈良市

取組及び成果

本事業では、個々の教員のESDに関する指導力を高めるだけでなく、各地でESDに関する研究会が設立され、ASPUivNet加盟大学等の支援を受けながら、ESDに関する研修を継続すると共に、研究会のネットワーク化を図ることで、全国的な波及効果が生じることを狙っている。これまでに、福岡県大牟田市・福岡県・山形県・沖縄県では自主的な「ESD研究会」が活動を始めていたが、今年度は愛媛県松山市で国立大学法人愛媛大学の支援を受け、また鹿児島県屋久島町は屋久島町教育委員会の支援を受け、新たに自主的な研究組織を立ち上げ、活動を始めつつある。さらに、近畿ESDコンソーシアム成果発表会・実践交流会でESDティーチャー等が実践発表を行ったことで、更なる実践意欲の向上につながると共に、2日目にESD対談シンポジウムを開催し意見交流をしたことで、今後のネットワーク化が期待できる。既に、山形県や沖縄県では互いの研修会にオンラインで乗り入れをしている。



【事業の情報発信(ホームページ)】 <https://kinkiesd.xsrv.jp/>

国立大学法人広島大学



SDGs達成のための資質・能力の育成を図る教員研修の包括的システム構築

事業の概要

SDGsの個々の目標の実現には、多様な思考力などの資質・能力の育成と学びに向かう態度の育成に重点を置いたコンピテンシー・ベースの授業づくりができる教師の研修と養成を図る必要がある。本事業は教員の資質・能力の育成を図るために、広島大学教育ビジョン研究センター、教育委員会、EPOちゅうごく、JICA中国、広島ガス株式会社等の多様なステークホルダーとの連携によって、教育方法の質的改善とSDGs関連の教材提示などをテーマにして、研修会・セミナー・ワークショップを組み合わせた包括的な教員研修システムを構築することを目的とする。

活動地域

対面式の研修会・セミナー・ワークショップは、主に広島県内および近隣の教員や大学院生を対象として行い、オンライン形式の研修会・セミナー・ワークショップは、全国規模で開催した。

取組及び成果

新型コロナウイルス感染拡大のために、大規模研修会2回とセミナー9回は、オンラインで開催することになったが、東北地方から九州・沖縄県、在外日本人学校など、広範囲の地域から1,859名の御参加を頂いた。また、授業づくりワークショップは3回(対面で2回)実施し、広島県内のほかに関東地方や四国地方からも教員の参加があり、システム思考力の育成を図ったミステリー手法による環境学習について、グループ学習を行った。参加者には資料を配布して、自身の学校で使えるようにした。



【事業の情報発信(ホームページ)】 <https://unesco16.hiroshima-u.ac.jp/>

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)



ESDの推進を担う学校及び教員のための評価手法開発事業

事業の概要

ESDの効果的な実践を促す学校及び教員のあり方を探り、そのための学校評価及び教員への評価づくりを行う。既存の研究や他分野の実践も参考にしつつ、学校教員自らの課題意識に基づいて評価指標を検討する。また、それらをフレームワーク化してまとめ、全国の教育関係者へ発信する。

加えて、令和3年度同補助事業において開発した児童生徒の学習評価に関するモデル手法を現場で試行し、効果や有用性の検証を進めるとともに、国内外への積極的な発信により成果の普及拡大を目指す。

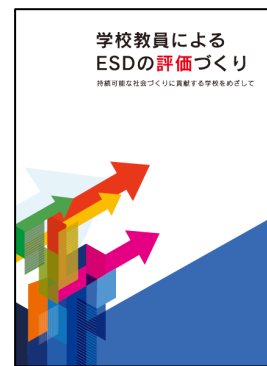
活動地域

宮城県気仙沼市、新潟県新潟市、東京都大田区、東京都新宿区、東京都狛江市、神奈川県横浜市、愛知県名古屋市、大阪府箕面市、京都府宇治市、京都府京都市、奈良県奈良市、兵庫県神戸市、広島県福山市、福岡県北九州市、福岡県小倉市
加えて、イベントをオンライン上で全国及び海外に向けて開催

取組と成果

関連分野における先行研究や国内外の調査の質問項目を比較検討した。さらに企業や地方教育行政の取組なども参考に、ESD実践の発展と教員らのウェルビーイング向上を軸とした学校及び教員評価について議論し、指標をまとめることができた。事業参加者間の議論の過程で、ESD推進のための本質と方策の輪郭が明らかとなった。

また、昨年度事業で開発した児童生徒評価のルーブリックを簡易版のオンラインフォームとして再構成し現場で試行、効果や有用性を検証した。国際イベントにて事例紹介し、国内外から高い関心を集めた。



【事業の情報発信(ホームページ)】 <https://www.accu.or.jp/programme/project/esd/>

横浜市教育委員会



ESDの価値を引き出すための多様な手法(評価)に関する研究と成果の普及

事業の概要

ESD推進校を指定し、ESDのホールスクールアプローチで学校運営を見直していくことを事業の柱とし、カリキュラムデザインを連動させESDを推進する。ESDの教育(学習)効果の評価について、横浜市ESD推進コンソーシアムの委員である学識経験者と推進校で協同研究、検証を行い、多様な評価実践の分析や整理を行う。評価については、一般的に簡易に行える量的な変化を捉えるものと、推進校を中心に質的な変化を捉えるものに分けて研究し、共にESDのどのような価値を引き出せるかを明確にしながらか検証する。

活動地域

神奈川県横浜市

取組及び成果

本教育委員会では、ESDによって「引き出すことができた価値」を視覚化するための手法を、学校が活用してESDを推進できるように、横浜市ESD推進コンソーシアム協議会や推進校情報交換会、児童生徒交流報告会、教職員交流報告会を開催し、多様な評価に関する研究とその成果を普及した。「アンケート」「イメージマップ」「テキストマイニング」等の手法を、推進校以外でも授業や校内研修等で活用できるように実践報告書にまとめ、全市立学校やESDを推進する団体に配付した。

